楳嶺百鳥画譜續編

地

小原重哉先生序
黒川真頼先生序
幸野梅嶺先生編畫

梅嶺百鳥畫譜續編

東京書林
錦榮堂梓

FREER GALLERY OF ART

百鳥畫譜續編序

古人有言曰東坡論畫不求形似至云摹壁上燈影得其神情然此特一時戲言耳若夫造微入妙則以形摸為先如頰上三毛傳神阿堵皆求其類似之謂也畫乕類狗鵠之類鶩豈可哉抑繢畫之事先哲既

具其法寫翎毛則不可不據二十九訣故數翮而畫鳥照辨而寫花然後超神畫變始可出新意於法度之中矣余自少小酷嗜繪事昂然抗顏放論慢言以自樂亦惟閑適之一戲耳近者東京書肆錦棠堂主人將刻京都人幸野楳嶺所作百鳥畫譜續編請序於余梅嶺余之相識也誼不可辭因閱之其畫愈出愈新應手畫變不啻有法則其有益於學者不鮮少乃聊書所見以返之若夫余言之當與否此畫之適法度與否則世自有公論焉明治十有八年孟春之

望書於仰拜　皇城俯觀
不二山處
米華小原重哉

楳嶺花鳥畫譜序

京都なる幸野梅嶺畫師ハ名たかくきこえて
しらぬ人にてあらざりけるを過こしその四月はるば
東京にまかりけるハあひのまじはりて仍て
むつまじき人となりきそのくはしくはのこゝろひてのち
おもへばぬしハこの道にふかくこゝろをもちゐる
ことハさらなるにもいまだこのまほらのあまたく
しきなからいたくよろこびまのあたりの畫師
とはいひまていと海をへだてたりとはなしなりけり
けぬぬしがはやくよりの世に畫譜のあまきの

巻こゝにいたりてはしめてみせはおもひあはする
色ある鳥はいと多かる事[illegible]
うひまなひのいさゝかなる[illegible]
ねむ[illegible]

明治十八年一月

玉川[illegible]

楳嶺百鳥畫譜續編地之巻目録

潮鳬（ナグカモメ）	荒磯（アライソ）	鴉鶵（コヨシキリ）	蘆（アシ）
鸊鷉（ニホ）	藻（モ）	尖尾鳥（サギカモ）	雪ニ蘆（ユキニアシ）
鴐鵞（アカガシラ）	雪ニ蘆（ユキニアシ）	岩鶇（イワツグミ）	女貞（ネズミモチ）
鳥（サトウ）	千瓣榴（ヤエザクロ）	島駒（シマゴマ）	李花（スモヽノハナ）
黒鵐（クマジ）	金瓜茄（クマゴナスビ）	秋紗鳥（スヽガモ）	小笹（コザヽ）
白雉（シロキジ）	拳参（エビグサ）	紅尾雲雀（ヲランダヒバリ）	酸漿（カタバミグサ）
青鵐（アヲジ）	瑞香（ジンテウゲ）	崑陽禽（コンヤウキン）	菩提樹（ボダイジユウ）
三呼鳥（サンコチヨウ）	菩提樹（ボダイジユウ）	陽鳥（キヌカヅキ）	稲穂（イナホ）

侯雁（シラカリ）　月（ツキ）　白鶴（ソデクロツル）　小笹（コザヽ）
夜遊女（シロフクロウ）　野葡萄（ノブドウ）　夜猫（シマフクロ）　野葡萄（ノブドウ）
鸛瑪（クイサギ）　嫩盧（ワカアシ）　熊野烏（クマノカラス）　苦苣苔（イワタバコ）
鸕（シヤマガラス）　苦苣苔（イワタバコ）　鶉（フナシウズラ）　白桔梗（シロキケウ）
燕烏（コクユルガラス）　合歓（ネブ）　鷗（カワカモメ）　合歓（ネブ）
玄鶴（クロヅル 丹烏）　古松（フルマツ）　江南雉（フナガキジ）　小笹（コザヽ）
大鶉（ヲホムク）　龍膽（エヤシグサ）　唐鶉（タウムク）　龍膽（エヤシブサ）
青雞（ヒイケイ）　虞美人草（ヒナゲシ）　家雞（シヨウコク）　春草（ハルソサ）

[illegible]鶁コヨシキリ
鸊鷉ニホ

尖尾鳧サヾガモ
駕鵞アカガシラ

桐花鳥
サトウテウ

岩鶫
イワツグミ

黒鵐 クロジ

秋沙鳧 スバガモ

鷴雉 シロキジ

紅毛雲雀
ヲランダヒバリ

青鵐
アヲジ

崑陽禽 コンヤウキン

三呼鳥 サンコテウ

陽鳥 キヌカヅキ

候雁
カリ シラ
梅嶺

白鶴
ソデグロヅル

夜猫 シマフクロウ

夜遊女 シロフクロウ

鵁鶄 ゴイサギ

鴉舅 クマノガラス
山烏 ミヤマガラス

鶉 フナシ ウヅラ

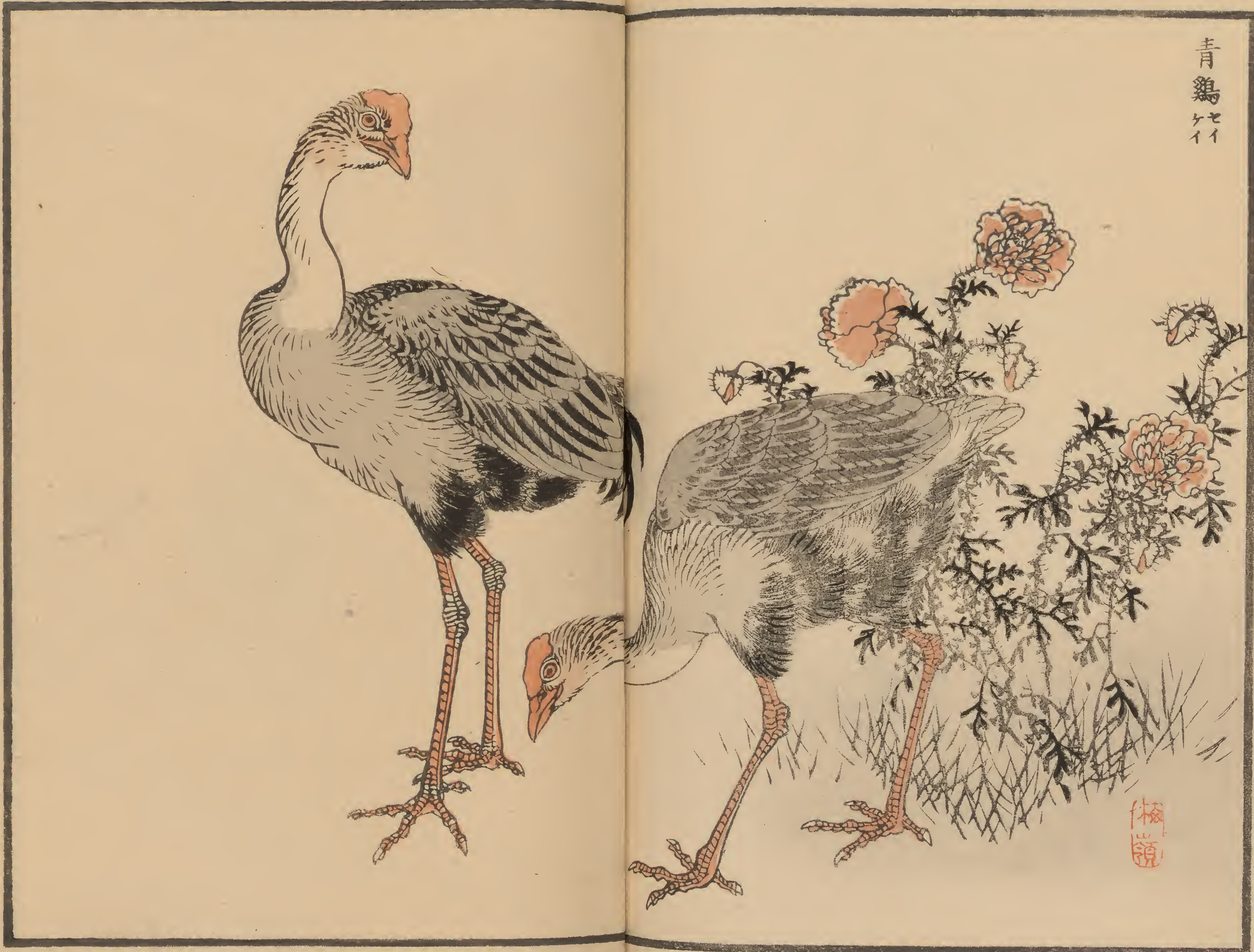
燕烏 コクマル カラス
鴎 カハカ ヒメ

玄鶴クロヅル
丹鳥タンテウ

江南雉 ヲナガキジ

大鶁 オホムク
唐鶁 タウムク

青鷄 セイケイ



家鶏 シヨウコク

鳲鳩 マメマキドリ
郭公鳥 カツコウドリ

(1884)

明治十七年十月廿日版權免許
同　年十一月　出版

筆者　京都府平民
下京第三組玉蔵町
百三十壹番地
幸野梅嶺

出版人　東京府平民
日本橋區通壹丁目
十九番地
大倉孫兵衛

堂圓活